

研究テーマ	〔Ⅳ 人や作品との対話やかかわりを大切にした造形教育を考える〕 発想・構想力を育む導入時の言語によるイメージのシェアリング活動の工夫 ～第1学年 紙の造形「四季のイメージをふくらませたカレンダー」の制作を通して～
-------	--

東海村立東海南中学校 小室 厚子

1 研究テーマについて

学習指導要領では「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」を目標としている。

研究テーマである「人や作品との対話」をどのように捉え、授業に反映させるかを考えた。まず、人との対話は、言葉で表現する活動として、「イメージを言葉に置き換え発表する」ことを実施する。また、イメージをふくらませるために、「アイディアスケッチの時に自分が考えたアイディアを班内で発表し合う」時間を作る。この2つをそれぞれ実施できる題材を考えた。

1つめの「イメージを言葉に置き換え発表する」は、1年生の「四季のイメージをカレンダーに表現しよう」の導入で実践することにした。春夏秋冬それぞれの季節のイメージを色や形で表現するために、まずは言葉で考えさせ、イメージを具体化させていけば、アイディアが広がると考えた。また、2つめの「アイディアスケッチの時に自分が考えたアイディアを班内で発表し合う」は、1年生の「漢字の意味を考えて絵文字を作ろう」のアイディアスケッチの時間に話し合いをすれば、友だちの様々なアイディアの中からヒントを見つけ、自分の作品に生かせるのではないかと考えた。

2 実践例

(1) 題材名 紙の造形 「四季のイメージをふくらませカレンダーに表現しよう」

(2) 題材の目標

- 身近な材料である紙に目を向け、基本的な知識や扱い方を理解して作ろうとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- 友だちの発表や資料を活用して、四季のイメージを広げることができる。
(発想・構想の能力)
- 様々な紙の種類と補助材料を生かし、四季のイメージを表現することができる。
(創造的な技能)
- 四季折々の自然を感じるとともに友達作品の良さや工夫点を鑑賞することができる。
(鑑賞の能力)

(3) 題材について

本題材は、日本の四季の美しさを感じ、それを身近な材料を使って表現するものである。

普段の生活でも切り離せない身近な素材である紙を使い、美しい日本の四季を作品に表現することで、季節感を味わいながら、紙の持つ良さを再発見したり、可能性を見いだしたりする学習である。

本校は、美術に対する興味、関心が高い生徒が多く、制作活動にも鑑賞活動にも熱心に取り組んでいる。部活動が盛んな学校でもあるため、自然が豊かで、四季折々の色彩に囲まれた環境の中で生活をしているものの、中学生になると自然の中で友だちと遊ぶ時間はほとんどなく季節の移り変わりをゆっくりと感じている時間があまりないのが現状である。

そこで、「季節を感じる身近な物」や、「季節を表す色」に着目させ、様々な種類の紙を使用し、イメージをふくらませ、カレンダーに表現することで、生活の中で息づく題材になると考えた。

また、新学習指導要領では、各教科の言語活動の充実が重点化され、美術科における言語活動は、感じ取ったことを言葉で表現し、アイディアを考える糸口やヒントにしたい。さらに四季のイメージをふくらませるヒントとなる言葉を考え、発表させる時間を確保することで今まで、自分が気づかなかった季節感気づき表現が広がるのではないかと考えた。本題材の1次に季節を感じさせる「色」「風物詩」を言葉で考え、発表させる時間を本時とした。

普段、アイディアスケッチや構想を練る時間を有効に使えない生徒が多数発表でき、次の活動へとつなげることができた。その言葉をヒントにイメージをふくらませ、作品の制作活動の充実を図っていきたい。

(4) 評価規準及び指導計画

(10時間取扱い)

次	時	主な学習内容	観点の重点				評価の規準 (方法)
			関	発	技	鑑	
1	1 本時	春夏秋冬それぞれの季節を感じさせる「色」「風物詩」を言葉で表現しよう。	◎			○	・季節を感じさせる言葉を考え、発表することができる。 (観察、発表)
2	2	四季のイメージをふくらませ、アイディアスケッチをしよう。	○	◎	○		・紙で制作することを考えながら、四季のイメージをふくらませ、アイディアスケッチをすることができる。(クロッキー帳)
3	6	紙の持つ特徴を生かし、四季を表現しよう。	○	◎	◎	○	・「切る」「ちぎる」「折る」「丸める」「貼る」など、紙の持つ特徴を生かし、四季のイメージを制作することができる。 (観察・作品)
4	1	友達の作品を鑑賞しよう。	○			◎	・友達の作品を鑑賞し、良さや工夫点を見つけ、ワークシートに書くことができる。 (観察・ワークシート)

(5) 本時の展開

①目 標 ・春夏秋冬それぞれの季節の色のイメージを言葉で表現することができる。

②準備・資料

参考作品、板書用紙、マジック、実物投影機

③展 開

	学習活動・内容	指導の手だて・評価																																												
つかむ (3分)	1 本時の学習内容を確認する。 四季の色のイメージを言葉で表現しよう	・ 前時に、季節の色を考えてくるよう投げかけておく。																																												
さぐる (20分)	2 四季を色で表現すると何色かを話し合う。 【色】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>春</td> <td>ピンク</td> <td>夏</td> <td>赤</td> </tr> <tr> <td></td> <td>緑</td> <td></td> <td>水色</td> </tr> <tr> <td></td> <td>黄色</td> <td></td> <td>緑</td> </tr> <tr> <td></td> <td>黒・・・</td> <td></td> <td>・・・</td> </tr> <tr> <td>秋</td> <td>茶</td> <td>冬</td> <td>黒</td> </tr> <tr> <td></td> <td>赤</td> <td></td> <td>白</td> </tr> <tr> <td></td> <td>黄色</td> <td></td> <td>青</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・・・</td> <td></td> <td>緑</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・・・</td> <td></td> <td>・・・</td> </tr> </table> 【風物詩】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>春</td> <td>ひな祭り</td> <td>夏</td> <td>花火</td> </tr> <tr> <td></td> <td>花見</td> <td></td> <td>夏祭り</td> </tr> </table>	春	ピンク	夏	赤		緑		水色		黄色		緑		黒・・・		・・・	秋	茶	冬	黒		赤		白		黄色		青		・・・		緑		・・・		・・・	春	ひな祭り	夏	花火		花見		夏祭り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの季節を書いた紙を準備し、生徒が発表した色を書き込んでいくことで、自分が考えていなかった季節の色に気付くようにする。 ・ 黒板にチョークで書くと、次のアイディアスケッチの時間に見られないので、紙に書いて、話し合った内容が次時に生かせるようにする。 ・ 季節ごとにイメージする色を発表をさせ、同じ色がでてきたら、比較させる。 <p>〈例〉 春の緑・・・黄緑色に近いの若葉 夏の緑・・・日ざしを遮る濃い緑 冬の緑・・・茶色が混ざったような深い緑</p> <p>夏の赤・・・ざらざら照りつけるような暑い太陽の色 秋の赤・・・紅葉のような深い赤</p> <p>春の黒・・・暖かくなり、もうすぐ植物が芽を出すための養分となる土の色の黒 冬の黒・・・寒い冬の凍り付いた静かな黒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料集の日本の伝統色のページを実物投影機
春	ピンク	夏	赤																																											
	緑		水色																																											
	黄色		緑																																											
	黒・・・		・・・																																											
秋	茶	冬	黒																																											
	赤		白																																											
	黄色		青																																											
	・・・		緑																																											
	・・・		・・・																																											
春	ひな祭り	夏	花火																																											
	花見		夏祭り																																											

	<table border="1"> <tr> <td>秋 稲刈り 紅葉狩り</td> <td>冬 お正月 雪だるま</td> </tr> </table>	秋 稲刈り 紅葉狩り	冬 お正月 雪だるま	<p>でTV画面に映しておき、言葉を可視化することで繊細な色の違いをわかりやすくする。</p> <p>⑧ 季節のイメージの色を言葉で表現することができたか。(観察・板書)</p> <p>⑨ 同じ色でも季節によって、明るさや鮮やかさのイメージの違いを感じることができたか。(観察)</p>
秋 稲刈り 紅葉狩り	冬 お正月 雪だるま			
深める (15分)	3 四季のイメージをカレンダーに表現するためのアイデアスケッチをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイデアスケッチをしている間は、前時に話し合っ書いた季節の色を黒板に掲示しておき、イメージをふくらませるための材料としたい。 ・ 紙での表現となるため、あまり細かいところにこだわらず、紙に触れながら考える部分があってもよいことを伝える。 ・ アイデアが浮かばない生徒には、資料としてウォッチを見て手がかりを見つけるよう話す。 		
振り返る (10分)	4 後片付けをし、本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のイメージを大切にしながら、友だちのものも参考にし、アイデアスケッチを進めること、通学路の周りの様子を観察することを伝える。 		

(6) 板書計画

紙の造形	【色】	【風物詩】	
<table border="1"> <tr> <td>四季の色やイメージを言葉で表現しよう</td> </tr> </table>	四季の色やイメージを言葉で表現しよう		
四季の色やイメージを言葉で表現しよう			
<p>制作手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 四季の色やイメージを言葉で表現しよう 2 アイデアスケッチをしよう 3 紙の特徴を知り、制作しよう 4 友だちの作品を鑑賞しよう 			

3 〈参考〉 3次 1時の展開
展 開

	学習活動・内容	指導の手だて・評価	
つかむ (3分)	1 本時の学習内容を確認する。 <table border="1"> <tr> <td>紙の特徴を生かし、四季のイメージを表現しよう。</td> </tr> </table>	紙の特徴を生かし、四季のイメージを表現しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習内容の「四季のイメージをふくらませ、アイデアスケッチをしよう。」が終わっていない生徒は、本時の学習内容をふまえた上で続きに取り組めるようにする。 ・ 第1次で行った「四季のイメージをふくらませるヒントとなる言葉」を黒板にはり、アイデアスケッチの参考になるようにする。 ・ 参考作品を鑑賞し、紙の特徴を生かした表現に気づく。 ・ 実物投影機で、はさみで切った和紙とちぎった和紙の表現の違いを提示し、表現に役立てるようにする。 ・ 形に切った紙を台紙のカレンダーに貼るとき、全面のり付けをしない立体的な表現を実際にやって見せ、表現に生かせるようにする。
紙の特徴を生かし、四季のイメージを表現しよう。			
さぐる (7分)	2 紙の特徴について聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 切る ・ ちぎる ・ 折る ・ 丸める ・ 貼る ・ 着色する 		

<p>さぐる 深める (30分)</p>	<p>3 四季のイメージを紙を使って表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カレンダーの表裏にレイアウトの異なった暦が印刷されていることを知り、どちらを利用するかを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座席の後ろの使っていない机を材料スペースとし、自分のイメージに合った紙を選べるようにする。 ・ 選んだ紙を使って、紙の特徴を考えながらアイデアスケッチのイメージに近づけるようにする。 ・ 必要な分だけ利用し、残りは材料スペースに戻すように伝え、材料を大切にすることを育む。 <p>④ 紙の特徴を生かし、四季のイメージを表現することができるか。 (観察・作品・クロッキー帳・カレンダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アイデアスケッチがなかなか進まない生徒には、資料「ウォッチ」や板書してある言葉を参考にしながら、四季のイメージを具体化させるようにする。
<p>振り返る (10分)</p>	<p>4 あと片づけをし、本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作りかけのパーツは、各自の袋に保管させ、なくさないよう意識を持たせる。

板書計画

<p>紙の造形</p> <p>紙の特徴を生かし、四季のイメージを表現しよう</p> <p>季節のイメージをふくらませるヒントになる言葉</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="223 1182 386 1384"> <p>色</p> </td> <td data-bbox="434 1182 596 1384"> <p>風物詩</p> </td> </tr> </table>	<p>色</p>	<p>風物詩</p>	<p>紙の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 切る ・ 貼る ・ 折る ・ ちぎる ・ 丸める ・ 着色する 	<p>参考作品</p> <p>参考作品</p>
<p>色</p>	<p>風物詩</p>			

4 考察

実践から

一番の成果は、生徒が個人の中で感じている季節をイメージする色について、シェアリングできたことである。日頃の授業では、教師が説明をし、その後すぐにアイデアスケッチをする。そこでは、教師の説明から受けたイメージと生徒の生活体験からなる、言わば、縦の広がりがあるアイデアを生み出す源となる。しかし、今回のような友だちのイメージをシェアリングできたことで、横の広がりがプラスされ「構想を練る」作業をより充実させた。アイデアがなかなか浮かばなくて、作業に取りかかれなかった生徒が、これまでの題材より少なかった。

今回、導入で行った「四季の色のイメージ」をシェアリングする活動の中で、「緑」が春、夏、冬の色として発表された。1つ1つ聞いてみると「春の緑は、黄緑色に近い若葉の緑」「夏の緑は、日差しを遮る濃い緑」「冬の緑は、茶色が混ざったような深い緑」と、生徒の言葉の豊かさに驚いた。さらに、「黒」も春と冬に発表があり、春のイメージに黒が発表されたときには、「えーっ」という声が聞かれた。しかし、「春の黒は、暖かくなり、もうすぐ植物が芽を出すための養分となる土の色の黒」「冬の黒は、寒い冬の凍り付いた静かな黒」と説明があり、そこには、先ほどの「えーっ」という雰囲気はなかった。これぞ、言語のもつ力だと思った。ほとんどの生徒が、春の色のイメージに「黒」が出てくると思っていなかったが、なぜそう感じたかをシェアリングできたことで、クラス全体のイメージの幅が広がったと考えられる。時間にすると、たった20分程度の言語活動だったが、発想・構想力を高める上でとても有効であった。

アンケート結果から

「作品を制作するときの、難しさと楽しさ」を聞いたアンケート結果では、「難しい」と感じるのは「アイデアを考えているとき」と「アイデアを作品にするとき」が圧倒的に多かった。これは、新しい課題について、教師から説明を受け、自分の生活体験や資料を参考にしてアイデアを生み出すことが、生徒にとって大変な作業であることを意味する。さらに、それを実際の形にするときにも難しさを感じている。また、「楽しい」と感じるときは、制作をしているときが圧倒的に多かった。苦労して考え出したアイデアを制作し、没頭している時に楽しさを感じている生徒が多いということが分かる。(グラフ1より)

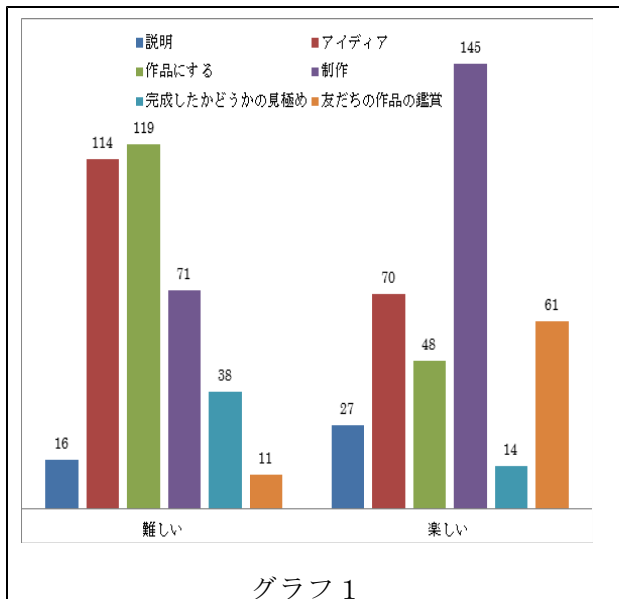
今回のカレンダーの制作で「楽しかったことは何か」を聞いたアンケートでは、「アイデアを考えている時」が一番多く、前述のグラフ1から分かる他の制作活動の「難しい」と感じていた点が「楽しい」になった。生活の中で感じている「季節感」を表現する課題であったため、アイデアを考えやすかったこともあると思われるが、季節ごとに感じる色のイメージを、言葉で明確にすることによって、アイデアを考える手助けになったことも考えられる。次に多かったのは「制作をしている時」で他の課題と同様だった。3番目は、カレンダーの制作のみで聞いた項目「色をイメージしているとき」で、イメージしているときの楽しさが、アイデアを考えるときの楽しにも繋がっていると考えられる。(グラフ2)

グラフとして表してはいないが、今回の授業にり入れた「季節をイメージする色のシェアリング活動」についてのアンケートでは、「自分のアイデアを考えるときに役に立った」とほとんどの生徒が答えた。他の課題の中にも、取り入れ方の工夫をしながら、効果的な言語活動やイメージのシェアリングを実施していきたい。

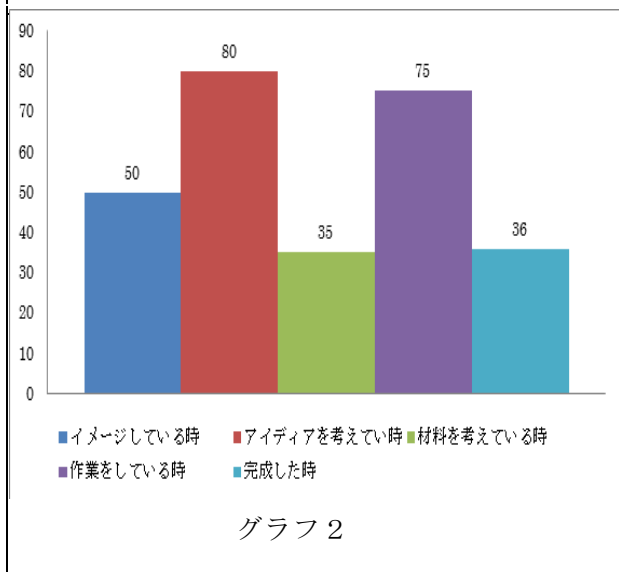
5 まとめ

今回の実践では、1学年の授業の中で、導入時の課題説明後に、言語による季節をイメージする色のシェアリングを行った。生徒は、制作時間を最も楽しみにしているために、アイデアを練ることにあまり時間をかけたくない、という思いが現実的にはある。しかし、前述の実態調査からも分かる通り、今回のカレンダーの制作では、「アイデアを考えることがたのしかった」と答えた生とが一番多かった。楽しく充実した制作活動を行うための「発想・構想を練る」時間の確保とそれを促すための教師の働きかけを今後も大切にしていきたい。

作品を制作するとき「難しい」と感じる時と「楽しい」と感じる時はどんな時？(複数回答)



カレンダーの制作で、何が楽しかったですか？(複数回答)



写真資料



「春のイメージの色は？」
 「ピンク!」「黄色!」
 「黄緑!」「黒」→「えーっ!」
 とテンポよく進められた。

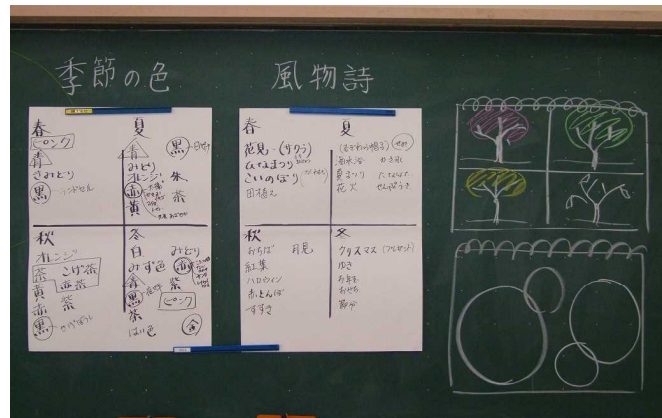


春→夏→秋→冬の
 順で生徒から発表
 された色を書いて
 いく。

同じ色が複数の季
 節に入っていると
 違いの説明の例と
 して、取り上げや
 すい。



アイディアスケッチを始めたところ。



板書の内容：クラスによって多少色の数や内容
 の違いが見られた。「他のクラスでは、こんな色
 も出ていたよ。」と参考として掲示した。



黒板に掲示された四季のイメージと、
 風物詩、さらに、資料のウォッチを参
 考にしながら、アイディアスケッチを
 進めた。



材料選びの様子。

材料は、折り紙や和紙
 包装紙などで、購入し
 た物と持ち寄った物を
 箱に 入れておいた。



1つの季節だけ完成させるのではなく四季が同時に仕上がるよう指導した。



のりと工作用セメダインの使い分けができるように参考作品を用意。



和紙の模様をうまく利用し，自分のイメージに近づけていく。



立体感を出す作品もたくさん制作され，紙の可能性を十分に作品に取り入れることができた。